

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370289

研究課題名(和文) 北アイルランド紛争の現在と詩的想像力の諸相

研究課題名(英文) The Status Quo of the Conflict of Northern Ireland and the Aspects of Poetic Imagination

研究代表者

佐藤 亨 (SATO, Toru)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：40245337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：1960年代後半以降、約30年に渡って3,600人以上もの犠牲者を出した北アイルランド紛争は1998年の「ベルファスト合意」を以て一応の解決をみた。しかし、プロテスタント系住民とカトリック系住民の対立は続き、現在でも暴動は絶えない。また、両宗派はすみ分けし、当地は依然として分断社会である。

本研究は、民族、国家、帰属意識、宗派などの諸問題が複雑に絡みあって生じた紛争と対立の経緯を分析するとともに、当地で生み出される詩作品やミューラル(壁絵)を、歴史・社会・政治的文脈を踏まえながら紹介、読解し、紛争後の社会の現状と、分断社会のなかで果たす詩的想像力の役割などについて考察した。

研究成果の概要(英文)：In the research I made analysis of the poetic imagination seen in the poems by contemporary poets in Northern Ireland and the murals depicted in cities such as Belfast and Derry, examining the status quo of the conflict. The conflict, which has caused more than 3,600 deaths since late 1960s, seems to settle down especially after the Belfast Agreement of 1998. However, Northern Ireland is still a divided society; people live separately according to their denominations and classes. The both sides of residents in Catholic and Protestant areas, which are mostly surrounded by peace walls, are different from each other in many aspects; national identity, political attitude, social and cultural background and so on. The murals reflect the differences, and at the same time some murals and poems give a message of peace in the changing political situations. In the divided society the poetic imagination makes a common land to people of both sides and make a bridge between them.

研究分野：アイルランド地域・文化研究

キーワード：北アイルランド 紛争 ネイション 植民地主義 分断社会 インターフェイス 詩 ミューラル

1. 研究開始当初の背景

北アイルランド詩の場合、詩作品と歴史的・社会的背景との関係はきわめて深い。詩の理解には詩の背景を知ることが必要であり、そのためには現地を訪れることが望ましい。私はベルファストやデリー（ロンドンデリー）の紛争地区を回り、現地調査を重ねており、現地の生々しい現実に触れるたびに、書物を通して学んだ歴史が具体性を帯びていくのを実感してきている。また訪問のたびに新たな研究動機や課題も生まれ、研究対象を、詩作品にとどまらず、プロテスタント・カトリック両コミュニティに見られるミューラル（政治的メッセージを込めた壁絵）やグラフィティ（勢いに任せて書いた政治的なメッセージ）にも広げてきた。これらの研究の成果は、数篇の北アイルランド詩人論（サムユエル・ファーガソン、ジョン・ヒューイット、ルイ・マクニース、シェイマス・ヒーニー、ポール・マルドゥーンなどを扱った各論）ミューラルについての単著『北アイルランドとミューラル』で公表した。

また、2011年4月から2012年3月まで、本務校から在外研究の機会を与えられ、ベルファストで1年間研究するという貴重な体験を得た。その間、詩の朗読会や文学イベントへの参加はもちろんのこと、現地調査を重ね、ミューラル調査を徹底的に行った。この1年は北アイルランド紛争への理解を深め、また、当地の問題に対して認識を新たにした年であった。例えば、ミューラルが社会情勢を反映し、その時々メッセージを住民に提供することを目の当たりにした。また、詩の朗読会では、詩人が、そして聴衆が、宗派を越え、詩というメディアを通して、場を共有している現場に触れ、分断社会における詩の役割を再認識した。さらには「インターフェイス」（多くは「ピース・ウォール」と呼ばれる壁である）

という、両宗派のコミュニティの境界線に足を運び、暴動などの衝突の現場だけではなく、住民同士の交流の現場も目にした。こうした一連の調査と研究の一端は、単著『北アイルランドのインターフェイス』として結実した。

以上、植民地、ナショナリズム、宗教など、世界が直面する諸問題の現在形を、北アイルランド紛争の現状分析と、詩や詩的想像力に裏打ちされた作品の読解を通して、引き続き行いたいと強く望んだ。

2. 研究の目的

本研究は、地域的には北アイルランド（ないしアルスター地方）を、時代的には20世紀から現在まで、とくに北アイルランド紛争が始まった1960年代後半以降を中心に扱う。タイトルに「詩的想像力」とあるのは、研究対象を文学作品に限定せず、北アイルランド住民の民衆的想像力をも広く視野に入れるからである。具体的には詩作品以外に、プロテスタントとカトリックという宗派ごとに分断されたコミュニティに見られるミューラルやグラフィティなども研究対象とする。

ミューラルやグラフィティについては政治情勢の推移とともに内容が変わるので、その変容の様子を調査し、住民の歴史認識や意識について考えたい。また、詩作品の研究であるが、ジョン・モンタギュー、シェイマス・ヒーニー、トム・ポーリン、マイケル・ロングリー、シェイマス・ディーン、デレク・マホン、キアラン・カーソン、トム・ポーリン、メーヴ・マガキアン、シニード・モリッシーなど、北アイルランドを代表する現代・同時代詩人たちを対象とする。

研究の主要な目的は、英国とアイルランドという二つのネイションが交錯する北アイルランドの地域・文化研究を通し、紛争地における想像力のあり方の研究、そして紛争地区における芸術の役割を考察することであ

る。

3. 研究の方法

北アイルランド紛争の現在を検証する本研究はベルファストを中心とした現地調査、ならびに北アイルランドの歴史、社会、文化に関する文献調査を通して行った。インターフェイスの情勢やミューラルの内容は政治状況に応じて変わるのでたびたび行った。対象地区は東部のショート・ストランド、西部のスプリングフィールド、南部のロウアー・オーモア、北部のアドイン、ホワイトウェル、タイガーズ・ベイ、ニューイントン、ニュー・ロッジなどである。

調査は、北アイルランドの現実の姿を記録・撮影し、住民の生の声を聴くのが狙いであるが、それ以外にも新聞などマスコミの報道だけではなく、現地の研究協力者とEメールなどで連絡を取り、できるかぎり知識や情報を更新した。

つぎに詩の研究であるが、詩作品を系統的に読むのはもちろん、社会的、歴史的側面に注意を向けながら、詩を読み解いた。また、現地調査の際、詩人と会見する機会を設け、北アイルランド社会における詩の役割についてなどについての考えや意見を聞いた。

以下に、研究の際に参照した基本文献を挙げたい。まずはアルスターおよび北アイルランドの歴史、あるいは政治や社会制度に関するものである。Jonathan Bardon, *History of Ulster* (The Blackstaff Press, 1992), Jonathan Bardon, *Belfast: An Illustrated History* (The Blackstaff Press, 1982), Thomas Hennessey, *A History of Northern Ireland 1920-1996* (Macmillan, 1997), Arthur Aughey and Duncan Morrow eds., *Northern Ireland Politics* (Longman, 1999), Gordon Gillespie, *Historical Dictionary of Northern Ireland Conflict* (The Scarecrow Press, 2008)。

つぎに、現地発行のパンフレット類を挙げ

る。これらはおもに北アイルランドのカトリック系、プロテスタント系両コミュニティの活動家らが中心になって編集、執筆したもので一般の研究書とくらべ、具体的な事例が多く挙げられ、また、地域住民の意識をつぶさに知ることができ、たいへん有益だった。*Life on the Interface* (Island Pamphlets 1, Island Publication, 1993), *Ulster's Protestants Working Class* (Island Pamphlets 9, Island Publication, 1994), *Orangeism and the Twelfth: What it means to me* (Island Pamphlets 24, Island Publication, 1999), *The East Belfast Interface (1): Lower Newtownards Road youth speak out* (Island Pamphlets 54, Island Publication, 2003), *The East Belfast Interface (2): Short Strand youth speak out* (Island Pamphlet 55, Island Publication, 2003), *Beyond Sectarianism: The Churches and Ten Years of the Peace Process* (Community Relations Council, 2005)。

最後に詩であるが、詩人それぞれの詩集を挙げると大部になるので、北アイルランドの現代詩、同時代史の系譜をたどった次の書を代表的アンソロジーとして挙げておく。Chris Agee ed., *The New North: Contemporary Poetry from Northern Ireland* (Salt, 2011)。

4. 研究成果

研究成果は、テーマを北アイルランドにしぼったものと、そうでないものに大別される。前者は地域を限定し、研究課題をじかに扱ったものである。後者は北アイルランド研究を踏まえたもの、あるいはその延長上にあるものである。なかには、T. S. エリオット研究のように、モダニズムやヨーロッパの問題など、北アイルランド詩人が共有するテーマを扱ったものもある。

北アイルランドのミューラルおよびイン

ターフェイス研究については、本研究が始まる直前 2014 年 1 月に刊行した単著『北アイルランドのインターフェイス』を受けて、現地調査と資料調査を行った。その成果の一部は 2 度の口頭発表で公表した。「イースター蜂起 100 年後の政治的風景 ベルファストとダブリン」、‘The On-going Peace Process and Changing Murals in Belfast,’ ‘Symposium: Images of Irish Culture.’ また、2017 年度に刊行予定である『北アイルランドを目撃する』に結実する予定である。本書は広く、北アイルランドの歴史、社会、文化を、現地で撮影した写真をもとに解説したものである。

詩については、北アイルランド詩人シェイマス・ヒーニーについて 2 篇書いた。「シェイマス・ヒーニー ペンで掘る アイルランドという故郷に向けて」、「北アイルランド紛争とギリシア悲劇 シェイマス・ヒーニー 『トロイの癒し ソポクレス「ピロクテテス」一変奏』をめぐって」。前者はヒーニーにとって詩作とは何かという問題を、詩人の出発から晩年までを視野に入れて論じたもの、後者はヒーニーの詩劇『トロイの癒し ソポクレス「ピロクテテス」一変奏』を取り扱い、ヒーニーがギリシアの悲劇詩人ソポクレスによる悲劇『ピロクテテス』を翻訳する際、いかに北アイルランド紛争を念頭においていることを跡づけたものである。

また、アイルランドおよび北アイルランドの現代詩に多大な影響を与えたパトリック・カヴァナの詩学について、同じく影響力の大きい W . B . イェイツと比較しながら論考した。「パトリック・カヴァナ イニスキーン・ロードからラグラン・ロードへ 田舎者詩人の上京」。

つぎに、北アイルランドの歴史については今年度刊行予定の『教養のイギリス近現代史』に、「アイルランドの独立と北アイルランドの成立」を書いた。これはタイトルが示

すように、19 世紀のユニオンイズムとナショナリズムの対立を経て、20 世紀にアイルランドが南北に分断されていった経緯（南はアイルランド自由国として独立を目指し、北は英国に残留していく経緯）を、とくに 1916 年という年を中心に解説・論考したものである。

ほかに、短いものであるが、アイルランドおよび北アイルランドの歴史、また、北アイルランドの現状を分析したものを書いた。「北アイルランドのユニオン・ジャック」。

最後に直接、研究課題を扱ってはいないものの、アイルランドおよび北アイルランド研究を踏まえたもの、あるいはそれに関連するものを挙げる。3 篇ある。「『さらわれっ子』の想像力 アイルランドと東北」、「在日コリアン詩の風景」、「サラエヴォ、ベルファスト、ヨーロッパ」である。最初のもは、ベルファストの一ミュージアムに引用された W . B . イェイツの詩を、アイルランドの妖精譚と比較し、さらに、柳田国男の『遠野物語』を引き、東西における妖精をめぐる想像力を分析・論考したものである。2 番目は、そして、北アイルランド紛争の中心地ベルファストと、同じく、民族、宗教、国家をめぐる内戦があったバルカン半島の一都市サラエヴォを比較し、なおかつ、両都市をヨーロッパという枠組みのなかで考えたものである。3 番目はナショナル・アイデンティティ、言語などの問題で北アイルランド詩人と共通点をもつ在日コリアン詩人（とくに金時鐘）を論じたものである。

最後に、T . S . ヨーロッパにおけるヨーロッパというテーマについて学会発表をした。「シンポジウム エリオットとヨーロッパ」ヨーロッパの文化的統一にこだわったエリオットについて考えることは、アイルランドの現在について考えるにあたって示唆深い。とりわけ、英国が EU 離脱を決めたこと、その際、同じ英国内でも北アイルランドでは EU 残留が多数派だったこと、さらに南のア

イルランド共和国は依然としてEUに加盟していることなどを考慮すると、今後、北アイルランドとEUの問題、ひいてはヨーロッパの問題は大きな問題なるからである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

佐藤亨、「サラエヴォ、ベルファスト、ヨーロッパ」査読無、『青山経営論集』第51巻、別冊、2016、30-44。

佐藤亨、「北アイルランドのユニオン・ジャック」査読無、広島日英協会会報、2016、2-5。

佐藤亨、「在日コリアン詩の風景」査読無、『青山経営論集』第50巻別冊、2015、44-59。

佐藤亨、「『さらわれっ子』の想像力 アイルランドと東北」査読無、『青山経営論集』第49巻、別冊、2014、33-50。

〔学会発表〕(計 5件)

佐藤亨、「シンポジウム イースター蜂起 100年を経た今」日本アイルランド協会年次大会、2016年12月12日、法政大学(東京都・千代田区)。

佐藤亨、「シンポジウム エリオットとヨーロッパ」日本T.S.エリオット協会年次大会、2016年11月12日、佛教大学(京都府・北区)。

佐藤亨、「イースター蜂起 100年後の政治的風景 ベルファストとダブリン」日本アイルランド協会、歴史・文学合同研究会、2016年10月22日、法政大学(東京都・千代田区)。

佐藤亨、「イースター蜂起と北アイルランド」日本アイルランド協会、歴史・文学合同研究会「イースター蜂起 100周年に向けて 多角的議論の可能性」、2015年10月24日、法政大学(東京都・千代田区)。

佐藤亨、「The On-going Peace Process and Changing Murals in Belfast,」Symposium: Images of Irish Culture,」イアシル・ジャパン年次大会、2014年10月11日、早稲田大

学(東京都・新宿区)。

〔図書〕(計 4件)

佐藤亨、「アイルランドの独立と北アイルランドの成立」共著、『教養のイギリス近現代史』所収、川端康雄、大貫隆史、河野真太郎、山田雄三編、ミネルヴァ書房、2017 予定。

佐藤亨、「パトリック・カヴァナ イニスキーン・ロードからラグラン・ロードへ 田舎者詩人の上京」共著、『文学都市ダブリン ゆかりの文学者たち』所収、木村正俊編、春風社、2016、269-292。

佐藤亨、「北アイルランド紛争とギリシア悲劇 シェイマス・ヒーニー 『トロイの癒し ソポクレス「ピロクテテス」一変奏』をめぐって」共著、『戦争・詩的想像力・倫理 アイルランド内戦、核戦争、北アイルランド紛争、イラク戦争』水声社、2016、155-222。

佐藤亨、「シェイマス・ヒーニー ペンで掘る アイルランドという故郷に向けて」共著、『アイルランド文学 その伝統と遺産』所収、木村正俊編、開文社出版、2014、509-531。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤亨 (SATO Toru)
青山学院大学・経営学部・教授
研究者番号：40245337

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()